



大 道 安 正

大道安次郎教授記念号によせて

関西学院社会学部長

小 関 藤 一 郎

大道安次郎教授は昭和47年3月で停年によって御退職される。大道教授は昭和5年から42年の長い期間にわたって関西学院大学に勤務されたのであって、先生の一生は全く関西学院のために捧げられたといってもよい。しかも関西学院大学は大道先生の母校である。母校に40年以上も勤務される方というのは余り多くない、稀な場合であろう。このように一生奉職された大道先生は今御退職されるに当って極めて感慨深いものがあり、先生の胸中にはいろいろの想出や感想が去来していることと思われるが、他面、これだけ長い大学生生活を無事おえられた先生はある意味で満足感をもっておられると思われる。

大道先生の大学生活はしかしたんに長かっただけでなく、経済学、社会学の両方の分野において立派な輝かしい業績をあげられただけでなく、社会学部創設期においては初代の学部長として、またそれ以降は図書館長としても大学の行政面においても重要な仕事をなしてげられてこられた。大道先生の学問上の業績についてここで詳しくふれることはできないが、社会学では「アメリカ社会学の源流」「高田社会学」、「老人社会学」等多くの著書を公刊され、後輩であるわれわれに多くの刺戟を与えられたことは特記しなければならぬことである。大道先生の学問的意欲は年をとることをしらないかのように継続され、発展されていることはこの道を歩むものにとって大きな教訓であるというべきである。こうした大道先生とここでお別れしなければならないのはまことに淋しいことであるが、これも天の命であっていたし方ない。われわれはむしろ大道先生ののこされた教訓をしっかりと胸の中に刻みこんで、一層研さんをはげんで社会学部の活動を一層盛んにしなければならない。そうすることによってわれわれは先生の教えに報いることができるのである。

その意味で紀要をこの号を先生にお捧げするのであるが、われわれは先生、どうかこのわれわれの心からの贈物をおうけとり下さいと感謝の念とともにお捧げしたい。最後に大道先生の長年にわたる御努力に感謝するとともに今後も御健康に御留意の上、更に学界のため活躍されることを心からお祈りする。先生が今後もわれわれ社会学の後輩たちを暖かく見守り、御指導下さるよう切に願う次第であります。

昭和47年1月17日